

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「いのち尊厳限りないもの」

～ 8月15日を前にして ～

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「正義と平和の神よ、わたしたちは今日、戦火に怯える人々のために祈ります。またわたしたちは平和のために、武器が用いられないことを祈ります。明日を恐れるすべての人々に、あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、み旨に適う決断へと導かれますように。そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン。」

(ウクライナのための祈りを再編)

今年の8月15日は、敗戦から79年目を迎えます。日本聖公会は戦後50年目の1995年に宣教協議会を開催して歴史を振り返り、翌1996年の第49(定期)総会で「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」を決議しました。そこには、「日本聖公会は、戦後50年を経た今、戦前、戦中に日本国家による植民地支配と侵略戦争を支持・黙認した責任を認め、その罪を告白します。」「日本聖公会は、敗戦後、すみやかにこの過ちを認めなかったこと、また戦後の50年も自らの責任を自覚せず、和解と補償のため積極的に働くことなく今日にいたったことを、神の前に告白し、アジア・太平洋の人々に謝罪します。」とあります。そして、「天皇のため」の祈りや「紀元節祈祷」、沖縄教区の痛みにも触れながら、「日本聖公会は、差別体質を戦後も克服できないでいることを告白します。神の民として正義を行うことへと召されていることを自覚し、平和の器として、世界の分裂と痛み、叫びと苦しみの声を聴き取ることのできる教会へと変えられることを祈り求めます。」と宣言しています。

「1995年宣教協議会報告書」は管区のホームページの「資料」、「各種報告書・資料」のページに、「戦争責任に関する宣言」は「声明・要請・決議文」の「総会・協議会で決議された声明・提言」のページに掲載してありますので、ぜひお読みください。管区の諸委員会や様々な宣教の取り組みも、この宣言を念頭においていま

口会議・プログラム等予定

(2024年7月25日以降・前回未掲載分)

7月

- 22日(月) 正義と平和委員会〔Web〕
- 24日(水) 臨時主教会〔Web〕
- 26日(金) セーフチャーチ・タスクチーム+法憲法規委員会+〔Web〕
- 31日(火) ナザレ委員会〔管区事務所〕

8月

- 20日(火) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔Web〕
- 22日(木) ～23日(金) 聖公会関係学校代表者会・教職員研修会〔吉祥寺・立教女学院〕
- 27日(火) セーフチャーチ・タスクチーム会議〔+Web〕
- 28日(水) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 29日(木) 人権問題担当者会〔Web〕
- 29日(木) エキュメニズム委員会・3教派合同〔Web〕
- 31日(水) 文書保管委員会〔管区事務所〕

9月

- 2日(月) 主事会議〔管区事務所+Web〕
- 3日(火) ～5日(木) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 5日(木) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔+Web〕
- 11日(水) 金融資産運用管理チーム会議〔管区事務所〕
- 12日(木) 正義と平和委員会〔Web〕
- 13日(金) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔札幌キリスト教会〕
- 25日(水) 管区共通聖職試験委員会〔Web〕
- 30日(月) 聖公会神学院参与会〔大阪・ホテル・ザ・ルーテル〕
- 30日(月) ～10月2日(水) 定期主教会〔大阪・ホテル・ザ・ルーテル〕

※管区事務所夏期休業

8月7日～14日(水)まで、管区事務所は夏期休業となります。緊急の際は総主事までご連絡ください。

(次頁へ続く)

すし、これからも大切にしなければならないものです。

2004 年に出版された『戦争の作り方』という絵本があります。「わたしたちの国は、70 年ちかくまえに、『戦争しない』と決めました。だからあなたは戦争のためにになにかをしたことがあります。でも、国のしくみやきまりをすこしずつ変えていけば戦争しないときめた国も、戦争できる国になります。(YouTube で検索するとアニメーションで見ることができます)」と、戦争をできる国に傾きつつあることを改めて思われます。

「自衛のために戦うことは必要だ、抑止力として米軍基地や核は必要だ、原発は必要だ」本当にそうでしょうか。一人ひとりのいのちの尊厳を大切にする教会として、本当にそう言えるのでしょうか。ガザやウクライナでの戦争が続く今、沖縄や広島、長崎のことを覚えながら、平和の尊さを再認識したいと思います。能登半島地震被災者のため、戦争犠牲者のために、各教会で祈り続けてくださっていることに感謝しつつ。

2023 年の宣教協議会からの呼びかけに応え、これからも神の声、人々の声、自然を含む世界の声に耳を傾け続け、いのちに仕え、となりびととなる道を歩んでゆきましょう。



□各教区

京都

- ・京都教区 能登半島地震対策室では、作業ボランティアを募集しています(本誌 14 ページ掲載の募集要項ご参照のこと)。被災地のご奉仕をお願いいたします。

□常議員会

第 68 (定期) 総会期第 1 回 2024 年 7 月 18 日 (木)

<主な決議事項>

1. 第 68 総会期常議員会の副議長に高橋宏幸主教、書記に大岡左代子司祭を互選した。
2. 管区事務所総主事からの報告を受け、管区諸委員会の動き、日韓聖公会宣教協働 40 周年記念大会 (2024/10/21-24 韓国・済州)、CCEA 総会 (2024/10/10-16 フィリピン・マニラ)、NSKK 神楽坂の状況、2023 年度統計表、年金のしおり、2025 年度教区分担金、教役者給与調整支援金、能登半島地震の

(前頁より)

10 月

- 2 日 (水) 常議員会 [川口基督教会]
- 4 日 (金) 日韓聖公会宣教協働 40 周年準備会 [Web]
- 7 日 (月) ~ 9 日 (火) 人権セミナー [大阪]
- 12 日 (土) 日韓聖公会宣教協働 40 周年準備会 [Web]
- 21 日 (月) ~ 24 日 (木) 日韓聖公会宣教協働 40 周年記念大会 [韓国・済州島]
- 24 日 (木) 日韓合同主教会 [韓国・済州島]

<関係諸団体会議・他>

- 8 月 6 日 (火) 広島平和礼拝 [広島復活教会]
- 9 日 (金) 長崎原爆記念礼拝 [長崎聖三一教会]
- 9 月 3 日 (火) キリスト教者狭山要請行動 [日比谷]
- 17 日 (火) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]
- 26 日 (木) 大韓聖公会ソウル教区主教按手式 [韓国・ソウル]
- 10 月 8 日 (火) NCC 常議員会 [Web]
- 10 日 (木) ~ 16 日 (水) CCEA 総会 [フィリピン・マニラ]
- 16 日 (水)・17 日 (木) 日本キリスト教連合会法人事務・会計研修会 [Web]

献金先などについて確認した。

3. 海外出張に関して、9/26 大韓聖公会ソウル教区主教按手式 (2024/9/25-27 韓国・ソウル) への上原榮正首座主教と矢萩新一管区事務所総主事の参列、日韓聖公会宣教協働 40 周年記念大会および日韓合同主教会 (2024/10/21/25 韓国・済州) の参加を承認した。
4. 済州日韓友情の家 (2024 年 9 月末完成予定) への支援に関して、大韓聖公会からの協力要請を受け、アジア・太平洋地域平和・和解資金から、600 万円相当のウォンの献金を承認、各教会へも募金と呼びかけることとした。
5. 2024 年度 BSA セミナー (10/5 開催) 後援名義申請に関して、BSA セミナーに「日本聖公会」名義での後援を承認した (4 月の稟議の追認)。

6. 管区事務所各主事の選任に関して、総主事からの提案を受け、承認した。
7. 第 68(定期) 総会期の管区諸委員に関して、主教会からの人選について検討し、承認した。
8. 第 68(定期) 総会の決議事項などを確認し、振り返りを行なった。

次回以降会議:2024 年 10/2 (水)、12/5 (木)、
2025 年 2/18 (火)

†**逝去者** 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ヨハネ所沢基喜 2024 年 7 月 17 日
(水) 逝去 於:カナダ (89 歳)

元カナダ聖公会ニューウエストミンスター教区聖十字 (ホーリークロス) 教会牧師。カナダ聖公会退職後、平安女学院・立教英国学院などでチャプレンとして勤務。

■訂正

『管区事務所だより第 397 号』 巻頭言で、聖歌 423「沖縄の磯に」について故山野繁子司祭(東京教区退職司祭) 作曲と記しましたが、正しくは作詞です。お詫びして、訂正いたします。

公 示

救主降生 2024 年 7 月 25 日
日本聖公会首座主教
主教 ダビデ上原榮正 ㊤

日本聖公会神戸教区 主教 オーガスチン小林尚明 師の休養にともない、下記の通り管理主教を委嘱いたします。

記

日本聖公会法規第 9 条第 3 項の定めにより、日本聖公会九州教区 主教 ルカ武藤謙一 師に、日本聖公会神戸教区の管理主教を委嘱する。

以上

《人事》

北関東

執事 ミカエル・ヨシュア大山洋平

2024 年 6 月 29 日 日本聖公会司祭に按手される。

司祭 ミカエル・ヨシュア大山洋平

2024 年 6 月 29 日付 榛名聖公会副牧師および高崎聖オーガスチン教会副牧師に任命する。

東京

聖職候補生 パウロ福永 澄

2024 年 6 月 29 日 日本聖公会執事に按手される。

執事 パウロ福永 澄

2024 年 6 月 29 日付 聖パトリック教会牧師補に任命する。

横浜

聖職候補生 ステパノ高野 洋

2024 年 6 月 28 日 日本聖公会執事に按手される。

執事 ステパノ高野 洋

2024 年 6 月 28 日付 鎌倉聖ミカエル教会牧師補に任命する。

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yurai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2024 年 7 月 16 日

祈祷書改正委員会

各教会の信徒・教役者のみなさま

改正祈祷書試用版のオンライン配付について

+ 主の平和がありますように。

現在、改正祈祷書の試用版が徐々に発行されておりますが、この度、オンラインでの配付の準備ができましたのでご案内申し上げます。

公開されるのは、基本的には主教会の承認を得て試用版となったもののみです。

配付は、各教会へ別途お知らせしております専用の Web サイトより、データ（Word 文書ファイル、PDF ファイル）でダウンロードして頂く形です。（試用版の内容により、Word 文書は公開されない場合があります。）

ご利用にあたっては、以下の点にご留意ください。

- 配付サイトへのリンクはご自由ですが、配付されるデータの再配布は禁止です。
- 試用版には頻繁にアップデートがかかる可能性があります。
配布サイトの「最新版：試用第 x 版」の記述を参照の上、最新版をご利用くださるようお願いいたします。
- Word 文書を用いて、試用のための礼拝用冊子を作成するために加工したり、詩編の必要な部分のみをコピーして試用したりすることは構いませんが、本文に変更を加えないでください。
また、試用版には豊富な選択肢が用意されていることが多いので、なるべく様々な形で試用し、ご意見をくださいますようお願いいたします。
- ダウンロードや、データの利用に関する技術的な支援は提供できませんので、ご自分の責任においてお願いいたします。
- 印刷物としての試用版配布は今後も続けますので、必要に応じてそちらもご利用ください。
ただし、データと印刷物で公開のタイミングに差が出る可能性があることをご理解ください。

◆ご意見をお寄せ頂くには

集計の都合上、各教会に別途お知らせしておりますフォームをご利用くださいますようお願いいたします。

書面でのご意見は、管区事務所宛にてお願いいたします。（その際、「改正祈祷書試用版フィードバック」とお書き添えください。）

今後とも、祈祷書改正の働きのためにお祈りとご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上

「日本聖公会緊急災害援助募金」の受入と送金先について（報告）

期間：2024 年 1 月 1 日～6 月 30 日

皆さまから管区へお献げいただいた災害被災者や難民救援のための募金は、緊急援助を必要とする地域への支援のためにお預かりしています。日本聖公会では「緊急災害援助資金」を設け、国内外からの救援要請に迅速に対応するための体制を整えています。今後もご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆管区事務所へお寄せいただいた援助募金（のべ 112 団体・6 名）：

緊急災害援助のため（1 件）	20,000 円
能登半島地震被災者支援のため（100 件）	7,018,024 円
台湾地震被災者支援のため（1 件）	50,000 円
ウクライナの人々のため（3 件）	50,806 円
トルコ・シリア地震被災者支援のため（2 件）	259,686 円
パレスチナ／アル・アハリ病院支援のため（11 件）	1,185,649 円

◆管区からの各団体への送金：

2 月 22 日	能登半島震災支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	300,000 円
2 月 22 日	能登半島震災支援のため ※管区緊急災害援助資金から送金	WCRP（世界宗教者平和会議）日本委員会	300,000 円
5 月 2 日	能登半島震災支援のため	京都教区 能登半島地震対策室	1,000,000 円
5 月 2 日	能登半島震災支援のため	ヒューマンシールド神戸 (災害救援 NGO 団体)	1,000,000 円
5 月 2 日	能登半島震災支援のため	能登地震キリスト災害支援会 (能登ヘルプ)	1,000,000 円
6 月 5 日	台湾地震被災者支援のため ※管区緊急災害援助資金から半額支出	京都教区（台湾地震支援募金）	100,000 円
6 月 17 日	ウクライナの人々のため	カリタスジャパン	100,000 円
6 月 17 日	トルコ・シリア地震被災者支援	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	900,000 円
6 月 17 日	パレスチナ／アル・アハリ病院 支援のため	アハリー・アラブ病院を支援する会	1,300,000 円
6 月 19 日	能登半島震災支援のため	ヒューマンシールド神戸 (災害救援 NGO 団体)	1,000,000 円

※これからも随時送金を行なって参ります

特集 2024「沖縄週間 / 沖縄の旅」

(写真左) 帰りの飛行機から見た普天間・嘉手納内飛行場とその周辺。

(写真下) 帰りの飛行機から見た大浦湾。

撮影・小林祐二司祭

**◇ 2024 年「沖縄週間／沖縄の旅」****《総合報告》****変わりゆく沖縄・変わらない沖縄**

正義と平和委員会 沖縄プロジェクト担当

司祭 サムエル 小林祐二

本 年も「沖縄週間」が終わりました。毎年 6 月 23 日の「沖縄慰霊の日」を含む 1 週間と定められていますが、今年は慰霊の日が主日と重なったこともあり、多くの教会が主日礼拝の中で沖縄戦戦没者の魂の平安のために代祷をささげたことと思います。また SNS 等では沖縄に思いを寄せ平和を願うプログラムを持った教会もあることを拝見しました。主旨に賛同くださりましたことを心より御礼申し上げます。

「沖縄週間／沖縄の旅」は、先立つ 21 日（金）～ 23 日（日）に予定通り開催することができました。昨年は管区定員の 20 名を超える申し込みがあったことを受け、本年は定員を 30 名に増やし、最終的には管区 22 名の参加となりました。教区ごとに見ると、北関東 2 名、東京 6 名、京都 5 名、神戸 2 名、九州 3 名、他教派 3 名に管区事務局総主事も参加されました。沖縄教区からは幼保教職員も含め延べ 28 名が参加。スタッフは管区 2 名、沖縄教区 7 名で、総勢 59 名となりました。

初 日は三原聖ペテロ聖パウロ教会に集合し、オリエンテーションのあと「声に聴く」と題したプログラムを持ち、沖縄教区のふたりの方から、沖縄の生きた声に耳を傾けました。



慰霊の日礼拝開式

ひとり目は「復帰っ子」（沖縄の日本復帰の年に生まれた子）世代の諸聖徒保育園（沖縄市園田）主任保育士・崎原美奈子さん。アメリカ文化を肯定的に捉えていたが、県外での生活を経

て、沖縄の生活の怖さを感じるようになったとのこと。米軍基地由来の騒音や道路状況に不自由を感じる一方、基地移設は他の場所にこの不自由を押しつけることになること、また基地で働く方も身近にいること等から、「基地問題」を語り合うことがタブーとなっている現実についてもお話いただきました。

保育の中では、沖縄戦を学ぶことを大切にし、『へいわってすてきだね』『つるちゃん』『へいわってどんなこと?』等の絵本を読みきかせ、子どもたちと平和について考える時間を持ってもらえるとのことでした。神さまが「極めて良かった」とされたこの世界が平和であるよう、これからも働き続けたいと括られました。

質疑応答の中で「沖縄は基地問題や貧困、事件も事故も多いけれど、沖縄の人びとは“なんくるないさ”精神で笑顔を忘れない。それは戦後の沖縄にあってもこの精神を守ってきた人びとのおかげ」(筆者意識)との言葉が印象的でした。

ふたり目は小禄聖マタイ教会信徒の真志喜修さん。長年沖縄週間／沖縄の旅に参加される真志喜さんは、平和教育、子育て、文化、天候、産業について等の質問に答えるかたちでお話いただきました。北谷やおもろまち等、返還された米軍施設は商業施設として利用される他、自衛隊基地に転換されていることもあるとのこと。

戦争体験の語り部が高齢化しているのは沖縄も同様であるが、真志喜さんの世代では学校教師の多くが体験者であり、学校教育のなかで生々しい体験が語られ、学芸会で沖縄戦の劇を演じたこともあったとのこと。子育て環境はあまり整っているとは言えないものの“ゆいまーる”(隣近所で支えあう)精神が息づいており、地域文化も継承されているとのこと。死者の葬りについては「亀甲墓」「洗骨」の習慣について教えてくださいました。屋根瓦を漆喰で塗り固めるのは台風対策でもあるそうです。

終わりに前日の新聞記事から渡嘉敷島の集団自決についても触れていただきました。集団自決

は渡嘉敷、南部、読谷で多く発生したが、米軍との近接により逃げ場を失ったことが大きな要因で、昨年訪れた「チビチリガマ」(集団自決発生)と「シムクガマ」(通訳がいたため集団自決は起きなかった)にも触れ、その恐怖の中、近くにいる人の影響が大きかったのではないかと語られました。

質疑応答に加え、沖縄での経験や思いを語られる方もおられ、初参加の方も沖縄を知るよい時間となったのではないかと思います。

この時間はオンライン参加も募り14件の申し込みをいただきました。Zoom録画をご覧になりたい方は、okinawa.project.nskk@gmail.comまでメールでお知らせください。

2 日目は大型バスに乗り合わせフィールドトリップに出かけました。ぎのわんセミナーハウスのおふた方にガイドをお願いし、宜野湾市・嘉数高台公園、名護市・辺野古、うるま市・平敷屋公園を訪れました。



瀬嵩の浜でのガイド

嘉数高台は展望台の工事が終わらず登ることができませんでしたが、駐機中のオスプレイを目にすることができ、参加者それぞれその騒音をイメージしました。

辺野古ではキャンプ・シュワブから大浦湾を隔てた瀬嵩の浜に立ち、埋め立てが進められる大浦湾を前に、平和のための礼拝をささげました。

基地ゲート前を通りながら、埋め立て工事のために基地内の川の流れが変更されたことや、工事の進展に伴い資材搬入口が変更されたこと等をガイドしていただきました。



嘉数高台から見た普天間飛行場

平敷屋公園は近くまでバスが入りませんが、ご高齢の方は伴走車に乗り換えて全員がホワイトビーチや自衛隊基地の規模を目の当たりにすることができました。

梅雨明けの沖縄の日差しは肌を刺し、参加者の体調が心配でしたが、体調不良を訴えるかたはおられずひと安心して終えることができました。

3 日目は三原聖ペテロ聖パウロ教会の主日礼拝に参列した後、北谷諸魂教会へ移動し、沖縄教区「慰霊の日礼拝」に参列しました。この礼拝では毎年「平和の礎」追加刻銘者を憶えますが、本年は沖縄県出身者 24 名、県外出身者 157 名、合計 181 名の魂の平安を祈りました。礼拝後はこの「沖縄週間／沖縄の旅」のダ

イジェスト動画を視聴する時間をとってくださり、振り返りのときを持つことができました。

昨年、慰霊の日礼拝の後に視聴したドキュメンタリーは映画「戦雲（いくさふむ）」として全国各地で上映され、同名の新書も刊行されました。チラシや帯には「祈るだけでは平和は来ないけれど、祈りなしには平和はつかめないのよ」という言葉が取り上げられ、「祈り」について問いかれるような思いに至ります。

沖縄 縄に伝わる“なんくるないさー”(なんとかなるさ) の言葉には、本来その前に”まくとぅそーそーけー”(真の行いをしていれば) という条件的な言葉があります。また“ゆいまーる”は互いに支えあうことの大切さを今の世に伝えていきます。わたしたちの主イエスさまは、「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイ 5:9) と仰いました。「実現する」とはどのようなことでしょうか。祈りはその根底をなすもので、わたしたちの生活や選択はみ言葉に聴き祈ることのみ心に適うものとして整えられ、やがてわたしたちを通じて主の平和がこの世界に証されるのではないかと思います。この旅を通じ、沖縄の人びとの切実な声を聴きました。参加された皆さま、また心を合わせて沖縄週間を過ごしてくださった皆さまが、主が示された真の平和を表し、「光の子」として日々を歩むことができますよう、お祈り申し上げます。

■沖縄週間／沖縄の旅に参加して 平和をつくりだす人に

沖縄教区三原聖ペテロ聖パウロ教会

マーガレット知花 阿佐子

梅雨あけの強い日差しの6月、沖縄は戦後79年の慰霊の日を迎え、鎮魂の祈りに包まれます。

そして、この6月23日を挟んでの3日間、日本聖公会沖縄週間・沖縄の旅が開催され、全国からの参加者や懐かしいメンバーの方々、またこのプログラムを長年支えてくださっているスタッフの方々にお会い出来、感謝の気持ちでスタートした沖縄の旅でした。

最初に日米両軍が本格的な攻防戦を広げた海拔92メートルの嘉数高台を訪れました。住宅や学校に囲まれた米軍普天間飛行場は、世界一危険な飛行場と言われており、住民の日常の

生活が基地被害との日々の戦いであり、今なお大きな負担を強いられています。

次に普天間飛行場の移設先として工事が進む辺野古大浦湾に到着。さらなる県内移設について賛否を問う県民投票では、県民の7割が反対の意思を示しているにもかかわらず、工事は進み、はや10年。大浦湾の軟弱地盤や遺骨の混じる土砂埋め立て、環境破壊、建設費の高騰、と問題山積です。

最後に、海軍棧橋と陸軍棧橋を有している勝連半島のホワイトビーチに到着。水陸両用の母港として使用され、また原子力軍艦の寄港地でもあり、放射能汚染等の不安も指摘されています。

翌日6月23日は「慰霊の日」、20万人を超える沖縄戦の犠牲者を追悼し、あらたに刻銘された181人の犠牲者名を読み上げ、二度と戦争は起こさない、平和をつくりだす者として、地道に行動していきたいと強く思いました。

国土面積の0.6%の沖縄に、在日米軍施設の約70%が集中し固定化され、基地から派生する人権、水質、騒音、事故等沖縄を取り巻く基地問題は悪化していると実感しています。

集団自衛権行使容認や安全保障関連3文書の閣議決定をうけ、陸海空自衛隊は、台湾有事と称して自衛隊の南西諸島の防衛力強化と配備拡張が加速しています。さらに現在、ウクライナ侵攻、イスラエル・ガザ地区での戦争と世界的な不安も、自衛隊と在日米軍の連携強化で一致しての動きは、あらたな戦前へと向かっているのではと危惧しています。

この原稿を書いている間も、米兵による女性暴行事件が5件勃発していたにも関わらず、日本政府は、沖縄県に報告せず、この国の為政者は、どこに顔を向けているのでしょうか。もし万が一、沖縄が有事で戦場になることがあれば、ドローンやミサイル等の性能が格段の向上している今、沖縄県内だけにとどまらず、本土の基地も巻き込まれることが十分考えられます。沖縄の基地問題は、本土の地域とも直接リンクしてお

り、身近な事としてとらえなければならぬところにきています。今まさに、軍備拡張に頼るのではなく、外交による話し合いによる平和構築を模索する岐路にきています。

そのために、沖縄側の人間として、沖縄の基地問題解決へ、諦めず忍耐強く、声を上げていくこと、そして本土の皆さんが、身近な、自分の地域に起こりうる自分事の問題として、平和への視点を共有することで、長い困難な道のりでも、日米安全地位協定の改定、米軍基地の整理縮小へ向かうのではないのでしょうか。

在京の知人の娘さんが、高校の修学旅行で沖縄へ来て以来、沖縄問題に関心が高まったとの話を聞くにつけ、多くの方が沖縄へ足を運び、これから先の日本の将来について考える機会を体感してほしいと思っています。今後とも、「沖縄週間プログラム」のような、学び共有する場が、広く継続することを念願しております。主の平和が皆さんと共にありますように。

■沖縄週間／沖縄の旅に参加して

沖縄の旅を平和の糧に

東京教区インマヌエル新生教会

ブリジッド菅原 恵子

梅雨明けの沖縄の空はどこまでも高く青く、海は絶えず波音を奏で続けている。鼻先をくすぐる潮風を感じながら穏やかな時間が、はるか昔から続いているような思いになる。しかし、辺野古で視線を上げた先には不格好に削られた山が赤肌を無残にさらす一方で、形成されつつある軍事基地が目に入った。現実の後頭部を殴りつけられたような感覚にとらわれた。ニュースや新聞で見て知っているつもりでいたのとは違う。戦争が近づいているような気がしてゾワッと鳥肌がたった。この数年で情勢が大きく動いていた。この旅は、「わかっているような気になっている自

分」をアップデートする機会になった。

日々の生活の中でメディアを通して戦争や紛争のニュースを目にし、その痛ましさに心を痛め祈るけれど、いつの間にか現状に慣らされて「争いのない平和な世」を希求する自分の声量は小さくなってはいないだろうかという問いを抱える日々。これまで平和教育の一環などで沖縄の地を複数回訪れた経験があり、島の人と壕やガマをまわり語らう機会にも恵まれたが、今回は信徒として現実を感じたいと参加を決めた。

沖縄の信徒の方の講演「声を聞く」では自分の体験に置き換えて考えることが出来た。過去、米軍基地のある街に暮らしていた時に行政の基地対策協議会に参加させていただいたことがある。その時、基地の環境汚染問題や事故の解決を検討する一方で、そこで働く人や自衛隊員の家族と接する日常に思い悩んだ時期があった。関東より身近で深刻な立場に置かれている方々の話を聞いて、簡単に割り切れない問題をどうとらえるのかという点で信仰が大切だということが身に染みた。

北谷諸魂教会での慰霊の日礼拝で上原榮正主教のメッセージを聞いた時、自分にとっては経験がなく遠くて実感のない戦争が、沖縄の人にとっては「終わらないうちに始まっている」ことを思い知った。「わかっているつもり」でいるうちに、危険が強調され新たな戦争の準備が始まっていることの恐ろしさと自分の怠慢さを。

戦争は命を奪う。大切な人を失いたくはない。人の命はなにものにも代えがたい。だから今回の旅で学んだことを糧に、日々平和を祈る声を大にしていこうと思った。

沖縄の旅が無事に終わるようにお守りくださった神様、スタッフの方々のご準備とご対応に心からの感謝を込めて自分なりに歩んでいきます。ありがとうございました。

PEACE

■沖縄週間／沖縄の旅に参加して

27 年目の再会

神戸教区神戸聖ミカエル教会

執事 ルカ宮田 裕三

出不精で飛行機嫌いの私にとって、沖縄という場所は遙か遠く、なかなか足の向かない場所です。1997年、東京・横浜の青年たちで沖縄スタディーツアーを企画して、沖縄の戦跡巡りをしました。なぜ沖縄に行こうと決心したのかは思い出せません。友人たちと遊びに行くことだけがその目的だったのかもしれませんが。大型自動車免許を持っている私は、小祿聖マタイ教会の幼稚園バスをお借りして、運転手として沖縄の戦跡を巡りました。お願いした戦跡ガイドの女性からは「運転手さん」と呼ばれていました。

2024年、沖縄の旅に参加しました。初日は集合時間よりも早く沖縄に入り、ハンバーガーショップA&W牧港店へ行きました。1984年公開の映画「メインテーマ」に登場したお店です。米津玄師氏の新曲「さよならまたいつか!」のMVで登場したお店のためか、たくさんの人であふれていて、おじさんひとりで行く場所ではなかったように感じました。A&Wはアメリカンスタイルのハンバーガーショップでお洒落に感じるお店です。ハンバーガーを食べ、航空機(軍用機かどうかは不明)の爆音が響く青い空を見ながら、沖縄に来了ことを実感しました。

私はアメリカンスタイルのお店で何を感じて沖縄を実感したのだろうかと思い巡らせました。私が喜んでいるのはアメリカ的な沖縄なのか、沖縄的なアメリカなのか、それとも沖縄そのものなのか。

沖縄には国家の暴力装置であるアメリカの軍隊と、最近増えつつある自衛隊の基地が日常の中に組み込まれています。

27年前は戦跡を巡り、沖縄の人たちの悲劇の現実の一端を知りました。多くの人が命を落とし

たその場所に立ち、戦争の傷跡、そして傷を抱えたままの沖縄を体験しました。今回は米軍基地と自衛隊基地の存在ゆえに起きている問題について知ることになりました。

普天間、辺野古、ホワイトビーチ、北谷。小さな女の子が街でひとりで歩いているのを見ると胸がキュッと締め付けられる思いに駆られました。自然破壊、生活環境破壊、人権侵害、性暴力…。「沖縄の声に耳を傾けよう」というサブタ

イトルが沖縄の旅に付いていました。「戦争は未だに終わっていません」という上原榮正主教の声が響きます。沖縄の声を聞いた私はいかに当事者のひとりとして立つことが出来るのかが問われているのでしょうか。私自身が「立ちなさい」と呼びかけられた沖縄の旅でした。ガイドして下さった女性は、偶然にも27年前にガイドをして下さった方でした。

沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、わたしたちを平和の器にしてください。
嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、
敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。
私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中にいやしを、
疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。
この沖縄週間を通してわたしたちを新たにし、
あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。
わたしたちの主イエス・キリストのいつくしみによって、
このお祈りをお献げいたします。 アーメン

□「代祷表 2024 年」について

ACP (Anglican Cycle of Prayer) 発行の代祷表(翻訳版)は、『管区事務所だより』の同封物として奇数月にご送付させていただいております。「代祷表 2024 年 11 月・12 月」は 8 月号が休刊、9 月号同封では延滞となりますので『管区事務所だより』7 月号に同封いたします。資料データは仕上がり次第、管区事務所の HP にもアップロードいたしますので、同 HP よりダウンロードし、ご利用いただけますと幸いです。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。 管区事務所

世界の聖公会の動向

- ☆国際聖公会女性ネットワーク (IAWN) が新リーダーを選出
- ☆タンザニア聖公会、全会一致で女性たちの按手を決議
- ☆米国聖公会が次期総裁主教を選出

管区事務所渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

◆国際聖公会女性ネットワーク (IAWN) が新リーダーを選出

ケンタッキー州に拠点を置く米国聖公会 (TEC) の司祭、ヘレン・ヴァン・コーヴァリング師が、国際聖公会女性ネットワーク (IAWN) の議長に選出された。また、アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会のヘラ・クラーク＝ダンサー師が副議長として選ばれた。彼女たちはそれぞれ、オークランドの大執事であるキャロル・ヒューズ師と英国聖公会のリジー・グリーン師の後任となる。

ヘレン師は次のように述べている。「私は、世界中の女性たちの世代を超えた実体験について、新しい声や視点による意見も取り入れつつ、提起していきたいと強く考えます。神に愛された女性たちの信仰、希望、抵抗、尊さに耳を傾け学ぶことは、教会にとっても世界にとっても、今までと同じく重要となっていくでしょう。」

IAWN はアングリカン・コミュニオンにおける世界規模の公式ネットワークであり、世界中の女性たちの代弁者として機能し、その結びつきを強めている。そのミッション・ステートメントには、次のように記されている。「私たちはアングリカン・コミュニオンのすべての女性たちのため、勇敢な預言者のように声を挙げていきます。神から与えられた女性と女兒の尊厳を守り、ジェンダーに基づく不平等や暴力を根絶し、すべての人々の間で公正な関係を築けるよう活動していきます。」

◆タンザニア聖公会、全会一致で女性たちの按手を決議

6月18日、タンザニア聖公会タボラ教区の第12回総会は、女性の司祭按手を全会一致で承認した。これにより女性の司祭を擁する教区としては、タンザニア聖公会28教区中で8番目となった。これまで過去30年に渡り、総会の議題では女性の聖職按手について議論されてきたが、可決されることはなかった。

タボラ教区主教のエリアス・チャクペワ師はこの記念すべき投票について、喜びを隠せない様子で次のように語った。

「もう30年が経ってしまいました。人々はもう既に、女性たちの按手を受け入れる準備ができています。昨今私たちの教会に訪れるのは、ほとんどの人が女性です。中には男性に対応されることについて、抵抗のある人もいるでしょう。今、彼女たちは自分らしくありながら自由に、仲間の女性たちより奉仕を受けることができます。」

投票結果が発表された瞬間について、エリアス師は続けて次のように述べた。

「喜びと拍手が生まれ、会場全体が歓喜で満たされました。以前の総会で反対の立場にいたのは主に聖職者で、信徒ではありませんでした。そのため私はここまで多くの時間を使い、聖職者たちに女性への按手の重要性を説いてきました。そしてついに、理解を得られるようになったのです。」

来る8月4日、最初の女性たちが按手される予

定となっている。

◆米国聖公会が次期総裁主教を選出

このほど開催された総会において、米国聖公会(The Episcopal Church/TEC)は北西部ペンシルベニア教区主教のショーン・ロウ師を、第28代の総裁主教として選出した。

ロウ師は11月1日から、米国聖公会の代表および代弁者として、9年間の任期を開始する。2015年に就任した、現総裁主教マイケル・カリ師の後任である。

彼は、米国聖公会全体で挙げられた5人の最終候補者の中から選出された。その他の候補者は、ネブラスカ教区のJ・スコット・バーカー主教、ペンシルベニア教区のダニエル・G・P・グティエレス主教、アトランタ教区のロバート・ライト主教、そして中央ニューヨーク教区のデデ・ダンカン・プローブ主教であった。

ロウ師の選出には、手書き投票による158の主教票のうち、少なくとも82票の獲得が必要とされていた。彼は89票を獲得し、それに対してバーカー師24票、ライト師19票、グティエレス師17票、ダンカン・プローブ師9票という結果であった。

この選挙は、米国聖公会全体で調査を実施

し、現職および退職された主教・教会指導者・スタッフたちへの数十回に及ぶ聞き取りや幅広い対話と祈りの時間を経たうえて、長期間に渡って行なわれた。

□ ウ師は史上最年少(※49歳)で総裁主教に選出された。24歳で聖職按手された当時も米国最年少であり、32歳で按手され米国主教団の一員となったときも最年少メンバーであった。

アングリカン・コミュニケーションズ総主事のアンソニー・ポグゴ主教は、ルイビルで開催された総会に出席した。ロウ主教の選出について、次のように述べている。

「総会が、ショーン・ロウ主教を米国聖公会の新総裁主教として選ばれたことを嬉しく思います。これから多大なる名誉と責任を担うロウ主教と、交替までお働きになるマイケル・カリ主教のため祈りましょう。この9年間のマイケル主教のご奉仕に心から感謝いたします。どうか、その人生の新章に神の祝福がありますように。」

米国聖公会第27代総裁主教であるマイケル・カリ師は、伝道を中心に据え、イエス様についてよく語ることに重きを置いてきた。奴隷にされたアフリカ人の子孫であり、アフリカ系アメリカ人として初めて総裁主教を務めた。



第28代米国聖公会総裁主教に選出された Rt. Rev. ショーン・ロウ主教
写真提供：米国聖公会(TEC)のランドール・ゴルノウィッチ

京都教区・能登半島地震対策室 ボランティア募集要項

1. 活動期間

8 月 12 日 (月) ～ 8 月 16 日 (金) 活動日 : 8/13 (火) ～ 15 (木)

9 月 9 日 (月) ～ 9 月 13 (金) 活動日 : 9/10 (火) ～ 12 (木)

各回全期間参加の方を優先いたしますが、部分参加も可能

活動日のタイムスケジュール

8 時センター発 (車) 11 時珠洲市着・作業 15 時珠洲市発 18 時センター着

基本的に途中の時間からの参加は不可能です。

2. 活動場所 当面は珠洲市

3. 宿泊場所 しおボランティアセンター (VC)

〒 929-1423 羽咋郡宝達志水町菅原や 6-2 しお子どもの家

責任者 司祭 出口崇

4. ボランティアの活動内容

作業ボランティア

・被災者宅の荷物整理、清掃活動、瓦礫撤去など、生活再建へのお手伝い。

5. 募集条件

- ・生活を整えつつ、力を合わせて活動できる方。

- ・宿泊代無料。食事、風呂代は VC で負担します。

- ・寝袋持参。洗濯等は各自負担。

6. 持参品

作業着、帽子、マスク、手袋、長靴、水筒、タオルなど。

その他、活動に必要と思われるものを持参してください。

7. 申し込み

各教区に送付されている「ボランティア登録票」にご記入の上、所属教会の牧師を通して、京都教区事務所へファクス、またはメールでご連絡ください。

責任者から本人へ連絡して、活動期間および内容を決定します。

*お電話での申し込みや、直接にセンターにお越しになられたり、センターに申し込まれてもお受けしかねますので、上記のことをよろしくお願いします。

8. その他の注意点

- ・活動開始日の 1 週間前までに申し込みください。それ以降ではお受けできません。

- ・活動期間が決定次第、各自の居住地にある社会福祉協議会で「ボランティア保険」に加入してください。

- ・当 VC の活動は基本的に社会福祉協議会を通したボランティア活動ではなく、当教区対策室の直接の関わりからの支援です。車の高速代の補助が出る「災害派遣等従事車両証明書」の交付は基本できません。

- ・6 月現在、活動予定の珠洲市では下水道の復旧が出来ておりません。簡易トイレを用意しております。宿泊場所の VC では水洗トイレが使用できます。

- ・最寄り駅の羽咋駅から VC までは活動時間であれば送迎が出来ませんので、各自でお越しください。

- ・各期間、8 ～ 10 人をめどに募集を締め切りいたします。

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yaraicho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2024 年 8 月 15 日

主にある皆さまへ

日本聖公会 首座主教 主教 ダビデ 上原 榮正
正義と平和委員会 委員長 主教 フランシス 長谷川 清純

8.15 平和メッセージ

私の魂は平和を失い 幸福を忘れてしまった。(哀歌 3:17)

主の平和がありますように

2024 年 8 月 15 日、日本は 79 回目の終戦記念日を迎えます。

ロシアによるウクライナへの侵攻、ハマスによるイスラエルへの攻撃からイスラエルのパレスチナ・ガザへの激しい報復攻撃は出口が見出せない戦争となっています。しかも国際連合憲章第 2 条 4 項で「武力による威嚇または武力の行使」を禁じていますから、国際法違反です。世界中の人々が戦争のない平和な世界の実現を祈っています。

日本は太平洋戦争後、日本国憲法を定め、第 9 条で「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は 武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と不戦を誓いました。日本は世界に冠たる平和国家を築いてきました。しかし 2015 年、国会は安全保障関連法案を強行採決し軍事費増額、武力増強、基地再編等を行ない、急ピッチで戦争ができる国にしようとしています。アジア地域を危険な状況にさらしています。

イエス・キリストは神と人類との和解のために自らの命を差し出して十字架にかけられ、復活によって新しい命の希望を与えてくださいました。日本聖公会はその十字架の道を歩む信仰共同体です。神の宣教は、人びとが互いにゆるし合い、大事にし合い、世界が愛で満たされることです。戦争は愛と真逆で、人びとの生活と自然環境を壊し、すべての命を奪います。戦争は人びとの悲しみと憎しみを蓄積、増大させ復讐心を生じさせます。私たちは、憎しみの鎖を断ち切り、すべての命が守られて、この世が神の愛で満たされますように、また私たちが正義と平和を来たらす器とされますようにと祈り続けます。

今年 6 月 23 日沖縄慰霊の日に読まれた平和の詩は、沖縄県立宮古高校 3 年生の仲間友佑さんの「これから」でした。この詩の作者の祖父母は、もう戦後生まれです。戦争を直接体験しなかった祖父母から、その子を通して孫である詩の作者にまで、平和を希求する祈りの重みが脈々として伝えられているところに、「平和の詩」の真価があることを学びとりたいと思います。以下は、詩の最後の一部です。

「人は過ちを繰り返すから 時は無情にも流れていくから 今日まで人々は 恒久の平和を祈り続けた 小さな島で起きた あまりに大きすぎる悲しみを 手を繋ぐように 受け継いできた それでも世界はまだ繰り返している 七十九年の祈りでさえも まだ足りないというのなら それでも変わらないというのなら もっともっとこれからも 僕らが祈りを繋ぎ続けよう 限らない平和のために 僕ら自身のために 紡ぐ平和が いつか世界のためになる そう信じて」

主に栄光

< 第 68 (定期) 総会期 諸委員 >

首座主教 主教 上原榮正 (沖縄)

総主事 司祭 矢萩新一 (京都)

常議員会<法人責任役員>

主教 上原榮正 (沖縄) 主教 高橋宏幸 (東京) 主教 笹森田鶴 (北海道)

司祭 大岡左代子 (京都) 司祭 土井宏純 (中部) 司祭 上田亜樹子 (東京)

赤坂有司 (東北) 池住 圭 (中部) 村井恵子 (横浜)

主事

総務主事 金子登美江 (北関東)

渉外主事 司祭 ポール・トルハースト (神戸)

財政主事 鈴木裕子 (東北)

宣教主事 司祭 卓 志雄 (東京)

広報主事 鈴木 一 (東京)

< 総会 >

議長 主教 上原榮正 (沖縄)

副議長 主教 高地 敬 (京都)

書記局 書記長 司祭 平岡康弘 (北関東)

書記 司祭 大山洋平 (北関東) 司祭 姜 暁俊 (横浜) 司祭 窪田真人 (横浜)

執事 福永 澄 (東京) 執事 藤田 誠 (東京) 執事 藤田美土里 (東京)

< 常任の委員 >

祈祷書等検査委員

委員長 司祭 鈴木伸明 (北関東) 司祭 岩佐直人 (沖縄) 鈴木 一 (東京)

文書保管委員

委員長 司祭 太田信三 (東京) 諸橋江利 (北関東) 渡辺定夫 (東京)

会計監査委員

委員長 塚田一宣 (中部) 岩井譲治 (横浜) 黒澤圭子 (東京)

< 常設の委員 >

神学教理委員

司祭 大岡左代子 (京都) 司祭 黒田 裕 (京都) 司祭 竹内一也 (横浜)

山野貴彦 (東京) 吉谷かおる (北海道)

礼拝委員

担当主教 主教 笹森田鶴（北海道） 司祭 市原信太郎（中部） 辻 彩乃（大阪）
司祭 永野拓也（神戸） 司祭 林 和広（神戸）

法憲法規委員

安次嶺佳子（東京） 司祭 片山 謙（横浜） 司祭 土井宏純（中部）
司祭 古本みさ（京都） 三浦基子（大阪）

<特別委員>**正義と平和委員会**

長・主教 長谷川清純（東北） 池住 圭（中部） 司祭 小林祐二（横浜）
篠田 茜（大阪） 西原美香子（中部） 福澤真紀子（東京）

日韓協働委員会

長・主教 磯 晴久（大阪） 池住 圭（中部） 司祭 上原成和（沖縄）
呉 光現（大阪） 黒澤圭子（東京） 司祭 松山健作（京都）

青年委員会 担当主教：主教 笹森田鶴（北海道）

長・司祭 千松清美（大阪） 司祭 相原太郎（中部） 司祭 上平 更（北海道）
新田紗世（東京） 松村 希（中部）

祈禱書改正委員会（◎礼拝委員 5 名含む）

担当主教 ◎主教 笹森田鶴（北海道） 専従者：◎司祭 市原信太郎（中部）
司祭 荻原 充（東京） 執事 越智容子（北関東） 坂本日菜（横浜）
◎辻 彩乃（大阪） 司祭 竹内一也（横浜） 司祭 永谷 亮（北海道）
◎司祭 永野拓也（神戸） 司祭 成岡宏晃（大阪） ◎司祭 林 和広（神戸）
布川悦子（東京） 司祭 大和孝明（中部）

女性の聖職位に関わる委員会

主教 西原廉太（中部） 司祭 大町信也（北海道） 篠田 茜（大阪）
司祭 中尾貢三子（京都） 中林三平（横浜） 司祭 西平妙子（沖縄）

<常議員会のもとにある委員>**宣教協働者招聘委員会**

主教 磯 晴久（大阪） 司祭 土井宏純（中部） 総主事

教役者給与タスクフォース

座長 中林三平（横浜） 赤坂有司（東北） 主教 高地 敬（京都）
総主事 総務主事 財政主事

ナザレ委員会

八木達郎（東京） 主教 高橋宏幸（東京） 司祭 上田亜樹子（東京） 植松 功（東京）
北川規美子（神戸）

管区審判廷審判員（任期は 2024 年から 2028 年までの 2 総会期、①②③は小審判廷の数）**「教区主教」**

①主教 小林尚明（神戸） ②主教 笹森田鶴（北海道） ③主教 高橋宏幸（東京）

①主教 西原廉太（中部） ②主教 長谷川清純（東北）

「現任司祭」

③司祭 大岡左代子（京都） ①司祭 瀬山会治（神戸） ②司祭 土井宏純（中部）

③司祭 八木正言（東北） ①司祭 矢萩栄司（北関東）

「現在受聖餐者（現在堅信受領者）」

②浅井 正（中部） ③小貫晃義（東北） ①宮脇博子（東京）

②村井恵子（横浜） ③尾関敏明（北海道）

ウィリアムズ主教記念基金・基金委員

委員長 首座主教 上原榮正（沖縄）

主教 入江 修（横浜） 倉石 昇（横浜） 鈴木 弘（東京） 主教 高橋宏幸（東京）

谷川 誠（北関東） 主教 長谷川清純（東北） 司祭 八代 智（神戸）

ウィリアムズ主教記念基金・運営委員

司祭 矢萩栄司（北関東） 総主事

<管区事務所宣教主事のもとにある委員>**人権問題担当者**

担当主教 主教 入江 修（横浜） 植田栄基（東京） 司祭 奥村貴充（大阪）

難波美智子（神戸） 司祭 松浦 信（北関東）

女性に関する課題の担当者（女性デスク）

司祭 大岡左代子（京都） 吉谷かおる（北海道）

ハラスメント防止・対策担当者

司祭 大町信也（北海道） 西原美香子（中部） 南 明美（京都）

セーフチャーチ・ガイドライン・タスクチーム

主教 入江 修（横浜） 司祭 大岡左代子（京都） 司祭 奥村貴充（大阪）

篠田 茜（大阪） 西原美香子（中部） 吉谷かおる（北海道） 総主事



2023. 8/31~9/3
全国青年大会より

日本聖公会
NIPPON SEI KO KAI

青年活動

のための日

2024年8月4日

聖霊降臨後第11主日（特定13）

あなたがたのところで、
お互いに持っている信仰によって、
共に励まし合いたいです
ローマの信徒への手紙1章12節 聖書協会共同訳

個人情報保護のため写真をぼかしています

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskk.org 広報主事（鈴木 一）宛て